

中海（斐伊川）の南部に位置する彦名干拓地は、コハクチョウの日本での集団越冬地の南限であることから、市民から環境保護を要望する声が高まり、「米子水鳥公園」は人と自然とが共存する公園をコンセプトに整備が進められたものである。

公園は、干拓未了地の地形と周辺の自然環境を保全しながら、つばさ池や葦原を一望できる位置にネイチャーセンターを設けるとともに、自然と身近にふれあえる施設として、観察広場や観察橋を整備した。

整備後は、水辺の自然の保全と動植物の保護による、人と自然のふれあいの場として、環境を学習する場として、広く活用されている。また、市民による米子水鳥公園友の会が結成されており、ボランティアとして手づくりの公園整備や各種イベントの開催、来訪者の水鳥観察の手伝いなどを行っている。



所在地	鳥取県米子市彦名新田
諸元	面積：287,696m ²
関係する施設 など	ネイチャーセンター
材料	県産木材
イベント	野鳥観察会、自然解説 講座ほか